

Tuuli

トゥーリ

2012年12月15日発行

今年には至誠学舎が創設100周年を迎え、多彩な記念行事を行いました。ボランティアの皆様方には記念式典や講演会にご参加いただいたり、バザー等ではお力をお貸しいただき、ありがとうございました。

次の100年に向けて地域のみなさまに変わらぬご支援をいただけますよう、来年からも心新たに頑張りたいと思います。皆様もどうぞよいお年をお迎えください。

至誠ホームボランティア講演会のご報告

12月1日、住民流福祉総合研究所所長、木原 孝久氏をお迎えし、ボランティア講演会を行いました。参加者は41名で、笑いながらのあっという間の2時間でした。

お話はまずは「ボランティアのあり方について」から始まりました。

「年をとると何もボランティアができないように思えるけれど、実は『いるボラ』というのがある。森林浴が体に良いのは、樹木が発散するフィトンチッドという物質。老人の目からも同じような物質が出ていてそれを老人浴という。子どもが老人ホームに来るとその物質で子どもの心が落ち着く。家に老人がいると心やさしい子どもが育つ。100歳の寝たきりのおばあさんの笑顔に会いにボランティアが来る。皆何らかの方法で人の役に立っている。ボランティアの入口はどこにでもある。」

次は「助け合いの地域をどう作っていくか」についてでした。

「困っている人がいればおせっかいといわれてもやる。ひきこもっている人がいたら無理にこじ開ける。自分や家族の困りごとはオープンにすることが大切。人に迷惑をかけてはいけないなどの日本人の常識は福祉の非常識！そうすることで孤立死を防がなければならない。東京都内の孤立死が多いのは50～60代の男性。生活に行き詰った時に「助けて～」と言えない。「助けて～」と言われた時、10人に9人は助けてくれる。なのになぜ助け合いが始まらないのか？助けるとおせっかいと言われるからだ。そこで大事なのは ①おせっかいさんをつぶさない。②「助けて～」と言う練習をする。③日ごろから困ったことをご近所に知らせておく。この3つが大切。ご近所同士さりげなく、お互いさまになるように。助ける人はまず助けてもらう経験をしよう！」

次に参加者から質問がありました。

「ご主人に先立たれた女の方はだんだん元気になるのに、奥さんに先立たれた男の方はだんだん元気がなくなってしまう。どうすればよいのか？」

木原先生：「まさにその通り。それを防ぐためにも妻が元気なうちに夫を地域デビューさせておく事。妻は自分の仲間のグループに夫を紹介しておく。きっとその中の世話焼きさんが面倒を見てくれる。」

少々おせっかいといわれても関わること、困りごとは口に出すことの大切さを学びました。資料がまだ幾分か残っていますので、ご興味のある方はボラコーナーまでお声かけください。

第61回東京都社会福祉大会

東京都社会福祉協議会会長表彰状受賞のお知らせ

今年も至誠ホームでボランティア活動をして下さっている2グループの方に、東京都社会福祉協議会より会長表彰状と感謝状が贈られることになりました。昭和52年よりシーツ交換や外出活動の補助、そして現在はホーム喫茶で利用者と楽しい時間を利用者とお過ごし活動を続けて下さっている「国分寺婦人ボランティアグループ」の皆さんには会長表彰状が、また昭和45年からリクリエーションを織り込んだご法話をして下さっている「ともしび法話会」の皆さんには会長感謝状が贈られることになりました。おめでとうございます。そしてこれからもどうぞ末永くよろしく願いいたします。

マーガレットサロン主催講演会のお知らせ フィンランドの楽しみ方Ⅴ ～フィンランド人と森とのかかわり～

至誠ホームは、北欧フィンランドとのつながりを強く持っています。今回はフィンランド滞在歴33年で、通訳・ガイド、翻訳者、施設・観光の総合コーディネーターとしてご活躍中の宮澤豊宏氏を講師としてお迎えします。森と湖の国として知られるフィンランド。その美しい風景のスライドを交えながら宮澤氏にフィンランド人と森との係わりについてお話を伺います。

- ◆ 日時 : 2月7日(木) 14:00~15:30
- ◆ 場所 : 至誠ホーム センター2階 ホール
- ◆ 内容 : 至誠ホームのご紹介と取り組みについて・・・企画推進本部長 岡田 清
ご紹介・・・橋本 ライヤさん
お話「フィンランド人と森との係わり」
・・・施設・観光の総合コーディネーター 宮澤 豊宏さん
- ◆ 定員 : 70名(申込締切:2月5日) 入場無料
- ◆ お問い合わせ : ボランティアコーナーまで 電話 : 042-527-0035
どうぞ皆様お誘い合わせのうえ、お申し込みください。なお当日上履きをご持参ください。

音楽活動ボランティアさんのご紹介

今年4月、若い女性が来園なさり、「ボランティアを始めたい。」とご相談がありました。音楽を勉強なさっていたと伺い、まずは生活アクティビティの職員と一緒に特養で音楽活動を開始。現在はスオミグループホームで、やはり音楽を勉強中の女性とお二人で音楽活動をして下さっています。

毎回とても詳しい活動記録を書いてくださいます。その記述内容はとても豊かなものです。目立たない利用者が実はそっと応援してくれていることに気付いた喜び、お年寄りの一言にはっとして自分の考え方を反省したこと、利用者の新しい一面を発見した驚き、利用者のさみしさに寄り添う気持ちなどをつづって下さっています。人を見る目の温かさ、人を受け入れるおおらかさ、常にユーモアを忘れない心の持ち主を是非皆様にもご紹介したく、榊 まり子さんに記事を書いていただきました。

はじめまして、こんにちは。榊 まり子と申します。

わたしは、大学を卒業して5年間は知的障害者更生施設で生活支援員として働き、3月に退職しました。現在はリトミックを学ぶ為に、リトミック研究センター付属教員養成校に通っています。新しい生活を始めようとしていた4月、日頃お世話になっている先生から「仕事を辞めて時間があるようならば、とてもステキな施設があるから、そこでボランティアをしてみたらどうですか？」と、至誠ホームを紹介して頂きました。ボランティア活動を始めて半年が経ちます。今は、グループホーム「スオミ」で、毎週水曜日の午前中に音楽活動をしています。45分間という短い時間ですが、童謡や昔の懐かしい曲を歌ったり、楽器を演奏したり、簡単な体操をして体をほぐしたり、曲にまつわるお喋りで盛り上がり、と楽しい時間を利用者さんと過ごしています。

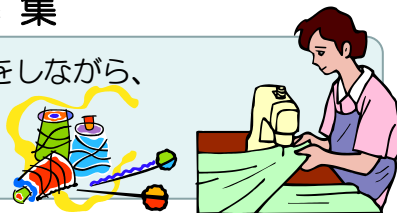
「音楽活動を始めますよ」「今日もよろしくお願ひします」という意味も込めて、プログラムの最初に挨拶のうたを歌いながら利用者さん一人一人との握手を必ずしているのですが、私はこの時間が一番好きです。利用者さんと目を合わせて歌いかけると利用者さんの表情が和らぎます。また、言葉のない利用者さんも私の手をギュッと握り返してくれ、その温かい手のぬくもりに触れることのできるその瞬間が、私はとても幸せに感じるのです。活動を始めた頃は、お互いに慣れなくてぎこちない握手でしたが、今ではすっかり皆さんとお決まりの握手になりました。今後も音楽を通して利用者さんと繋がっていきたいです。

一人一人との出逢いに感謝の気持ちを込めて…。これからもよろしくお願ひいたします。

縫い物ボランティアさん募集

お年寄りがけがをしないようにリハビリ室の職員と一緒にいろいろ工夫をしながら、クッションやカバーなどを作ってくださるボランティアさんを募集します。

- ◆ 活動場所 : 生活アクティビティ (特養2階奥)
- ◆ 活動日時 : 火曜日 10時から 人数 : 数名



発行 社会福祉法人 至誠学舎立川 至誠ホーム 企画推進本部 企画調整 ボランティア担当 寺澤・加藤

連絡先 〒190-0022 東京都立川市錦町6-28-15 Tel: 042-527-0035 Fax: 042-527-2646
E-mail: shisei-volunteer@shisei.or.jp HP: <http://www.shisei.or.jp>